

ピンク色の涙

チャペルで聴くアルパ(中南米の民族楽器。パラグアイハーブ)のコンサートが実現しました。ノアの箱舟を模したチャペルの天井に響くアルパの音色は、すべての人を包み込み、幸せな空間となりました。

学生が「音楽はいいですね。気分が良くなりました。いろいろなことが上手いかず、イライラしていたんです」と話しかけてくれました。「元気になりました。しんどい日々が続いていたんです」と職員がお礼を言いに来てくれました。

福島県相馬市出身の奏者は、311の震災のときに何度も慰問に訪れ、この一瞬だけでもほっとした時間になってほしいと、アルパを演奏してきました。「涙が変わってくるんですよ」と教えてくれました。「会場に集まったみなさんは、悲しくて涙を流しています。それが、しばらくするとうれしい涙に変わっているんです。表情が笑顔になっているんですよ」

群青色の涙がピンク色の甘い涙に変わったのかもしれない。

『まめしば』(荒井良二+キム・ソクウォン:作、株式会社小学館発行)をめくっていきました。見開きページの左側は群青色の縁取りです。泣いている少女から流れる涙のしずく一つひとつに顔が描かれています。その顔は悲しそうです。右側はピンクの縁取りです。少女の髪もピンク。流れる涙のしずくも、ニコニコ顔が描かれたピンクのハート型です。「ねえ、知ってる? 悲しい涙より、うれしい涙のほうが、すこしだけ甘いんだって」と書かれています。(原文はすべてひらがな)

「ねえ知ってる?」と問いかけられます。「ふ〜ん、知らない」「へえ〜、そうだったんだ」と絵本のなかの『まめしば』との会話が進みます。知らなかったことを知ると楽しくなります。「〜は、〜なんだよ」と教えてくれる人がいるとうれしくなります。

私たちも、「ねえ知ってる? 〜は、〜なんだって」の問いかけと答え、創作してみるのも面白そうです。

「ねえ知ってる?」「世界で一番使われている言葉は、『わたし』なんだって」

「ねえ知ってる?」「チャペルでアルパに触った人は、ピンク色の涙を持っているんだって」